

## オンライン記者レクの裏側

研究推進部 研究推進室渉外チーム

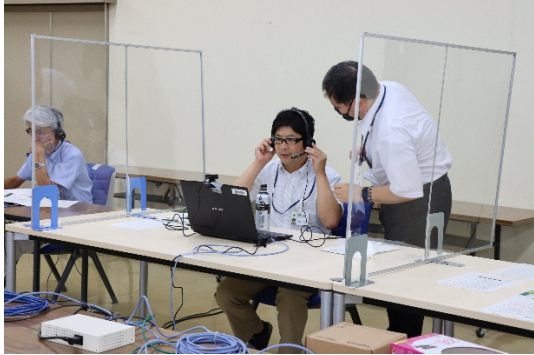
2020年8月5日、当部門では初めてのオンライン記者レクが行なわれました。オンラインで実施した理由はもちろん新型コロナウイルス感染症予防のためです。案件は、地域資源工学研究領域水文水資源ユニット皆川裕樹主任研究員と、農地基盤工学研究領域畑整備ユニット北川巖ユニット長による「豪雨時の洪水被害軽減に貢献する水田の利活用法ー水稲を減収させない湛水管理の目安と水位管理器具の開発ー」でした。

農研機構としては、「スーパーコンピューター紫峰」に次いで2回目のオンライン記者レクでしたが、農村工学研究部門での開催は初めての試みです。そのため、2週間前から準備を始めました。まず、何といても発表者や司会者をはじめとする参加者用のパソコンが足りません。そこで部門内の他部署からお借りすることになりました。その設定等から始め、1週間前に予行演習、前日に本番さながらのリハーサルを行いました。また、パソコンにトラブルがあった場合に備えて代替機を用意、さらに、感染症予防に万全を期するための換気対策や、使用した机や椅子、キーボード等の消毒だけでなく、参加者同士の机の間に透明のフィルムによる遮蔽板を急ごしらえで設置と、あらゆる策を講じました。

それでも、本番中に参加者の音声にノイズが交じったり、司会者のパソコンにつなげた高性能カメラの処理に追い付かず画像や音声に遅延が生じたり、さらに共有していたパワーポイントの資料を遠隔地で参加していた記者の方に操作されてしまったりと、最後までハラハラドキドキの連続でした。それでも皆様のご協力のもと、無事に終えることができました。当プレスリリースには数多くの取材をいただき、新聞やオンライン記事等に取り上げられました。



使用するパソコンの設定を行います



当日もマイクやカメラの調整を行いました



当日の本番直前の様子



発表する皆川主任研究員



質疑応答に答える北川畑整備ユニット長